ちゃんちゃん。
ちゃん生年一月二十五日ニ散布

勞働者諸君!!! 兄弟妹姉に告ぐ!!!

當局の魔の手が遂に吾等の上にも向けられる時が來た。經濟界の不況の爲めに、遂に吾等が虐げられる者の犧牲に供さるゝ時が來た。昨年十二月卅一日吾等兄弟が相互に扶助し合ひ且つ團結の力に依つて地位の向上を計らんとする勞働組合『工親會』の幹部及び戰闘員の十三名に對し突如專賣局は馘首を告げたのだ。然もそれは非公式の口頭を以ての通告でありその理由は『行政整理の爲めに』と言ふのだ。

此の奇怪なる通告に對して馘首者は默して居る譯に行かない。直ちに斯く問ふした。『行政整理は聞えるが、特に我々十三名を選んだ理由は如何。吾等は業務に勤勉である。老朽陶汰ならば吾等は餘りに若過ぎるぢやないか。他に老人が譯山居るぢやないか。高級者を陶汰するならば吾等は皆低い賃銀を支給さるゝ者のみぢやないか』と然るに當局は漸く三名の馘首者に對して事を附する事が出來た。けれども他の名に對しては何等答へる事を成しないで、理由も公然と發表し得ないとは、之れが不當解雇でなくてなんでしやうか。

兄弟妹姉よ立て!!

勞働者の眼前には常に『失業』と云ふ暗黒な深淵が實に恐ろしい口を開いて、吾等を呑みこまんとして居る。最近經濟界の世界的不況の結果はそれでも、此方でも吾等兄弟がこの深淵と群を成して呑まれて行くんだ。恐ろしいと思つて居ないか。不安を感じてゐないか。然も吾等の働きつゝあろ官營工場方面は馘首がはげしいのだ。今更云ふ迄もない『失業』は吾等の死を意味する。吾等は失業から脱れねばならん。兄弟よ妹姉よ死の淵に突き落さうとする者と戰はねばならぬ。御互に團結して是れを防がねばならぬ。他人の問題ぢやない。凡て勞働階級の虐げられつゝある總ての兄弟姉妹の問題なのだ。吾等は一時も早く此の不安から脱ればならぬ。一時も早く此の世の失業を無くせねばならぬ。が今それが出來なければせめては幾分の失業手當を取つて失業中の生活を支へ得るやう計らねばならない先づ此の爲めにお互ひに團結して戰はねばならないのだ。起て起て共に戰へよ。

兄弟姉妹よ立て!!

諸君は去る十二月廿五日の大阪時事新報夕刊の記事を如何に讀んだか。それは『近く專賣局は三百人の職工を馘首すべし』とあつたのではないか。之れを見た當局は早速翌廿六日の同紙朝刊に製造課長をして此のうわさを取消さしめ、斷然馘首者は出さないと明言はしたが、それは吾等が起つて騷ぐ事を恐れての虚言なのだ。ごまかしに過ぎないのだ。その舌の根のかはかぬ卅一日に早くも十三名の反抗しさうなものを先きに馘首したのだ。後の二百八十名が、近く馘首される事は火を見るよりも明らかな事だ。否まだ〳〵多くの兄弟姉妹が馘首されるかも知れないのだ。諸君の失業が、諸君の飢が、今眼前に迫りつゝあるのだ。起て起て戰へよ。

兄弟姉妹よ立て!!

十三名の馘首者に對して當局は勤續手當を月給の四分支給し、一年を增す毎に四分增して支給する。そして勤續手當は二ヶ月半與えると言ふのだ。一見して解る如く私立工場に比してさへ手當は少いのだ。然もこれで失業の波に今後永らくたゞよはなくてはならぬのだ。

勞働者諸君よ吾等は此の際大いに戰つて充分な手當を取らねばならぬ。歸國の旅費も貰はねばならぬ。十三名の問題は絶へず失業に脅かされつゝある總ての兄弟姉妹の問題なのだ。

繰り返して云ふが、吾等は擧つて充分なる失業手當を支拂はせねばならぬが、それと同時に今度の馘首が此の機を利用して吾等の團結を、即ち組合を切り崩すため、特に十三名を先に馘首した事を腹のドン底に疊込んで戰はねばならない。專賣局は吾等の團結が恐いのだ。吾等が堅い團結を有すれば、吾等をこんなに虐げて置けない時が來るのを知つて居るんだ。

起て起て吾等と共に闘へよ!兄弟姉妹達よ!

兄弟姉妹よ立て!!

工親會

起て! 諸君の起つべき時は今